是川小

主体的で対話的な授業づくり

～自分の考えをもち、議論できる発問の工夫～

（３年計画の２年次）

校長　　佐々木　宏恵

１　研究主題について

本校では、教育目標「学ぶことの喜びと確かな力をもつ是川の子」、努力目標「考えを表現する子」を掲げ、主体的に学習に取り組む子どもを育てることを目指している。そのために必要なのは、児童が「学びたい、話し合いたい」という意欲をもって学んでいける授業づくりをすることである。対話を通して学ぶ楽しさを感じさせることにより、友達と共に学び合い、高め合う、主体的に学ぶ子どもが育成できると考え、本研究主題を設定した。

昨年度も「主体的で対話的な授業づくり」という研究主題のもと、必要感をもって学びに向かわせる発問や題材の提示を工夫し、児童の伝え合いを促すことに取り組んできた。その成果は以下のとおりである。

〇実態調査や教材理解をもとに、授業のねらいを適切に設定したことにより、その授業の中心が明確になり、授業を貫く中心的発問や、児童の思考をゆさぶる補助発問が適切に配されるなど発問が吟味され、対話を促す授業づくりへの理解を深めることができた。

〇子どもに必要感をもたせようと教師が意識して日常の授業づくりをしたことにより、資料提示や子どもの思考をつなぐ聞き返し、思考を整理する板書及びワークシートなど、必要感をもたせる適切な手立てを講じることができた。その結果、子どもの「考えたい」「解決したい」という意欲が高まり、対話的な学びにつながった。

その一方で、話合いの場面では「他者の意見をうけ自らの学びを深める力が十分に身に付いているとは言えない」という課題が残された。

そこで今年度は、児童が自分の考えをもてる授業づくりをすること、議論を通して学ぶ楽しさを感じさせることにより、共に学び合い、高め合うことができ、主体的な学びにつながると考え、副題を「自分の考えをもち、議論できる発問の工夫」と設定して取り組む。なおその際には、昨年度の研究の成果である以下の３点を生かした授業づくりを行う。

・事前調査や実態調査、深い教材理解を基にめあてと適切な手立てを工夫する。
・児童の「議論する姿」「主体的な姿」を共通理解し、日常において対話する力を育てる。
・短い間隔で、教員間で成果を共有してさらに指導に生かす。

これらのことによって、児童が自分の考えをもち、主体的に伝えたり、受けとめたりして議論できる学びの力を身に付けることができると考える。

２　研究のねらい

主体的で対話的な学びの実現に向けた指導の在り方について、児童が課題を解決したいという必要感をもたせるために、授業づくりにおいて発問を工夫し、自分の考えをもって議論できる力を育むことを、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

次の手立てを継続的に実践した道徳科及び日常の指導を行うことによって、児童が自分の考えをもち議論できるようになり、主体的で対話的な学びを実現することができると考える。

(1) 教材の特性（価値）及び系統性や児童の実態、学習内容から、児童が身に付けるべき（育てるべき）学びの力を明確にし、児童に自分の考えをもたせる手立てと、児童の思考を促す発問を吟味する。

(2) 子どもの「主体的な姿」「議論している姿」を定義し共通理解した上で、対話する力を育成することを意識した日常の指導を行う。

４　研究内容

(1) 系統性（上下の学年とのつながり、学年内での同じ価値内容での児童の学び）をもとに教材を理解し、適切な授業のねらいとそのための手立てを明確にする。

(2) 児童の対話を促すための教師の働きかけを吟味する。

(3) 児童一人一人に、自分の考えをもたせることができる導入及び発問を工夫する。
(4) 対話する力を育むことを意識した日常の指導を行い、その成果を教員間で共有して道徳科の授業及び日常の指導に生かす。

5　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究（感染症対策に配慮し、ビデオ協議会とした）

月日	題材名及び授業者	本時の目標
7/9	４学年道徳「心の体温計」 授業者　教諭　佐々木俊介 助言者　八戸市教育委員会教育指導課 主任指導主事　大野　勉　氏	○自分自身を客観的な視点で振り返ることを通して、節度ある生活を心掛けることですっきりした気持ちで過ごせることに共感し、自分も節度ある生活をしていこうとする心情を育てる。
9/29	２学年道徳「くつかくし」 授業者　教諭　井沼志穂	○物を隠すことについて、様々な人の立場になって話し合うことを通して、周りの人だけでなく自分も困るということに気付かせ、人としてしてはならないことは絶対にしないように生活していこうという心情を育てる。
12/1	５学年道徳「手品師」 授業者　教諭　釜石優子	○手品師が約束の方を選んだことの是非について議論することを通して、誠実に生きることの大切さと難しさを理解し、誠実に明るい心で生きていこうとする心情を育てる。

(2) 一般研修

月	日	研　修　内　容	講　　師
6	2	一人一台端末活用相談会①	是川小学校　教諭　佐々木俊介
6	23	対話力を高める日常の指導相談会	是川小学校　校長　佐々木宏恵
8	18	絵をかく会審査研修会	前江南小学校　教諭　川村真弓氏
9	1	作文指導について	是川小学校　校長　佐々木宏恵
9	22	「議論する道徳」板書相談会	是川小学校　校長　佐々木宏恵
11	17	特別支援教育	八戸市こども支援センター 主任指導主事　横沢吉則　氏
1	7	一人一台端末活用相談会②	八戸市総合教育センター 主任指導主事　石井一二三　氏

6　研究の成果

(1) 児童が身に付けるべき力を明確にした上で、「めあて」ではなく「考えたいこと、課題」として児童に提示することで、児童に考えさせたいことや課題を中心とした授業づくりを行った。考えさせたいことや課題が明確になったことで、導入の工夫や児童をゆさぶり思考を促す発問、考えさせたり表現させたりする場の設定などの適切な手立てを講じることにつながり、考えをもたせる授業づくりについて理解を深めた。
(2) 主体的に議論する姿について共通理解して日常の指導の中で対話する力を高める指導を行い、その成果や課題を短いサイクルで検証し共有することを重ねた。教師の工夫により、考えを話せない児童でも自分の考えをノートに書いたり、うなずきや相づちで自分の意思を表したりするなど、考えを表現するよう児童の意識を高めることができた。その結果、児童が自分の考えをもって議論できる力を育むことにつながった。

7　研究の課題

(1) 話合いにおいて、自分の意見を主張することや、些細な表現の違いを指摘することに意識が向いてしまうことが多く、他者の意見を聞いて自らの学びを深める力や、折り合いをつけて建設的な話合いを行おうとする態度が十分に身に付いているとは言えない。他者の意見を聞いて理解しようとしたり、共通点を探し自分の考えとつなげて話したりするなど、話合いを通して全体で課題を解決する力をどのように身に付けさせていくか、研究を重ねていく必要がある。
(2) 児童が自ら対話できるよう促す教師の働きかけについて、今後も教師が日常の授業の中で研究し、短いサイクルで共有と検証を重ね、全体での研究を推進していく必要がある。

（記入者　佐々木俊介）